

荒川登山口

荒川トレイルは、縄文杉に行く最も人気のあるルートである。トレイルの最初の登り坂は緩やかで、その大部分はかつての安房森林軌道の線路に沿っている。トレイルは小杉谷（2.6km、約 50 分）、楠川分かれ（4.4km、約 90 分）を通過する。登山道の終点は大株歩道入口（8.1km、約 2 時間 40 分）である。大株歩道は、ウィルソンの切り株、そして縄文杉へと続く最後の区間である。荒川トレイルとは異なり、大株歩道は陰しく、踏破は苦勞させられる。縄文杉に到着し、最終シャトルに間に合うよう戻るには、午前 6 時 30 分までにはここを出発する必要がある。

トレイル沿いの名所

安房森林軌道

荒川トレイルの約 8 キロは安房森林軌道に沿っている。この軌道は 1922 年に着工され、森林から安房港までの木材輸送に使われた。現在も現役で走る国内でも数少ない森林軌道の一つである。公園管理者は、倒れた杉の搬出、トイレの排泄物の撤去、登山道の整備資材の搬入、緊急輸送などにこの軌道を利用している。歩きやすいようにレールの間には木の板が追加されているが、濡れると滑りやすくなる。

小杉谷

ここは 1923 年に設立された村と伐採事務所の跡地である。第二次世界大戦後の数十年間、木こりやその他の労働者が家族とともにこの谷に住んでいた。現在、集落跡の近くには屋根付きの休憩所があり、遊歩道沿いには集落の暮らしぶりを伝える写真が展示されている。

楠川分かれ

荒川トレイルは白谷雲水峡方面へ分岐する楠川分れも通る。荒川トレイルを縄文杉方面へ進みたい方は、軌道内を進むように。

ウィルソン株

大株歩道の起点からおよそ 0.6 キロのところに、16 世紀に伐採された巨大なスギの切り株がある。当時、樹齢は 2,000 年から 3,000 年であったと推定されており、切り株の窪んだ空洞の内部は空に向かって開いている。その中には小さなせせらぎが通っており、切り株の外側に並べられた岩や丸太は、この場所を休息に適した場所になっている。

ウィルソン株から縄文杉までの最後の 1.9 キロの道のりは、およそ 1 時間 30 分ほどである。

縄文杉

「森の王」として知られるこの太古の杉の巨木は、屋久島を代表する名所のひとつである。縄文杉に

到着したその日のうちに帰るには、午前 10 時までに大株歩道入口に到着しなければならない。

そこからは片道約 2 時間のハイキングで、登山道は非常に険しく岩場も多い。木の南側と北側にはウッドデッキが設置され、太古の巨人を眺めるための広い休憩スペースとなっている。縄文杉からの帰路は、午後 1 時までに出発する必要がある。

さらに進む

縄文杉からは、九州最高峰の宮之浦岳（1,936m）に向かって登山道が続く。登山道は 5.6 キロの険しい山道で、片道 4～5 時間かかる。宮之浦岳を目指すハイカーは、山小屋で一泊する必要がある、暗くなる前に到着できるよう計画すべきである。経験の浅いハイカーには山岳ガイドの同行が推奨される。

注意事項

ヤクシマザルやヤクシカ、あるいは様々な種類の両生類や昆虫類、鳥類がこのエリアには生息している。国立公園内の動植物保護のため、ハイカーは常にトレイル内を歩くことや動物に餌を与えないこと、水源を汚さないこと、苔を踏みつけないこと、またはゴミを残さないことを要求される。許可されていない場所でのキャンプ、森林内での火起こし、生き物を捕まえたり傷つけたりすることは、すべて法律で禁止されている。また、道中にある小さな祠にも敬意を払うように。

携帯電話はほとんど通じないが、エリアによっては電波が入るところもあるので、ハイカーは緊急時に備

えて電話を携帯しておくとい。島の天候は急変することがある。縄文杉ルートは島で最も雨の多い場所にあり、大雨が降ると道が見えにくくなる。そのため、最後の登りの難易度が飛躍的に上がるだけでなく、怪我やその他の災難のリスクも高まる。先に進むかどうかを検討する際には、救助活動は困難で高額になる可能性があり、一般的にハイカーがその費用を負担することになるのを忘れないでほしい。

バイオトイレは楠川分れ近くにあり、大株歩道入口には水洗トイレがある。小杉谷、大王杉、縄文杉付近には、常設の携帯トイレ用ブースと期間限定のテント式トイレブース（3月～11月で利用可）がある。ハイカーは携帯トイレパックを携帯することをお勧めする。森に入る前に登山道入口にあるトイレで用を済ませておくこと。